

5. 地域医療教育研究推進プログラム

本プログラムでは、全国8地区において、国公立大学を拠点とした地区・地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師として、地域の福祉医療・保健衛生を主導し、大学・地域連携による先進的地域医療を担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。さらに、多職種連携によるチーム医療・地域医療教育を担う実務実習指導薬剤師や臨床系大学教員の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、**第3期中期目標期間中から実施している「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究の共同開発」事業において**、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「地域医療教育研究推進プログラム」については、これまで国公立19大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）において、それぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに主導してきた薬学実務実習の実施体制や地域医療発展へ貢献してきた実績を基盤とし、また本事業の「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」において構築した薬学人材養成教育拠点を基軸として実施する。本プログラムとしては、地域の医療機関や病院、薬局、他大学との連携による、高度先導的薬剤師養成において重要な優れた臨床能力の養成に必要な地域医療教育を主導できる指導薬剤師研修プログラムや、自大学卒業生・修了生をはじめ社会で活躍する薬学人材のキャリアアップや専門性の高度化を可能とするアドバンストリカレント・アドバンスト生涯教育プログラム、学部生や大学院生の地域医療への関心を高め実践的な臨床能力の向上を図る地域医療アドバンストインターンシッププログラムの実施が挙げられる。

【2022年（令和4年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○早期介護体験実習

- ・1年生次に医薬看の学科の学生の混成チームとなり、福祉施設や慢性期病棟を持つ病院にて、1週間の実習を受け、地域医療での医療人また、その中でも、薬剤師の役割を学んだ。

<岡山大学>

○ 津山洋学資料館訪問（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、津山洋学資料館訪問を実施した。幕末から明治期の美作地域にある医家の調合の間を再現した展示や『解体新書』の実物など蘭学が始まったころの資料を展示している資料館を訪問し、岡山に日本医学の原点があることを知ることで、本学にて薬学を学ぶモチベーションの向上を図ることを目的としている。実施日：令和4年6月9日、参加58名（学部生49名、大学院生2名、教員7名）。

○ 国立ハンセン病療養所見学研修（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、国立ハンセン病療養所見学研修を実施した。治療薬がなかったことで疾患への誤った医療知識が広まり差別を生み出したハンセン病の歴史を知り、医薬品に携わる者としての使命を自覚する機会として、岡山県内にある国立ハンセン病療養所長島愛生園を訪問した。実施日：令和4年7月16日および9月3日、学部生（1～6年生）5名、大学院生1名、帯同教員2名

○ 川崎医大及び倉敷芸術科学大学卒業生制作展見学研修（*）

- ・学部生を対象として、人体及び疾病について広く深い学習の場の見学により医療人としての自覚を促すと共に本学薬学部学生の備えるべき教養と人間性を涵養することを目的として、川崎医大現代医学教育博物館の見学と、倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施した。
- ・薬学部学生にとって医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となり、また医学薬学の世界と違う形での創造性に富む意欲的な作品に触れ刺激を受けることで、薬学部学生の備えるべき教養と人間性の涵養の機会となった。
令和5年1月17日、参加学生17名、帯同教員2名

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク（TPN）

- ・徳島大学薬学部を拠点として県薬剤師会、県病院薬剤師会と連携し、地域薬剤師への学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性を認識させることにつなげている。2022年度は2回開催し、参加者は全体で200名。

<九州大学>

○ 薬局実務実習における在宅医療実習

- ・薬局実務実習において学部生を対象とした在宅医療や終末期医療に関する実習により、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の育成を図る。

○ DXを活用した教育プログラム

- ・電子処方箋、オンライン服薬指導など昨今の世の中の急速な変化に対応するため、関

連する知識に関する講義とオンライン服薬指導システム（テルモ社製ハートライン）を用いた演習を実施した。

<熊本大学>

○感染症医療人材養成事業

・パンデミック下での大規模災害時に医療従事者が行うべき感染対策を討議・学習する3学科（医学部医学科、保健学科、薬学部薬学科）合同実習、シミュレーターを用いた薬学部生のワクチンの調製・投与（筋注）実習を実施した。また、熊本大学での職域接種業務を通じて、ワクチン保管・管理、調製ならびに投与に関する実態について、研修を行った。

○ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

・熊本大学薬学部薬学科における薬学教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を加速し、ウィズコロナ～アフターコロナ時代に対応できる先進的な薬剤師を育成する目的で、DXファーマ養成プログラムの強化を図り、治療薬やワクチンによる副作用の評価に必要な知識・技能を効率的に学習する講義・実習、デジタル医療機器・ウェアラブル端末を用いたフィジカルアセスメントの重要性について学習する講義・実習、オンライン服薬指導・疑義照会に必要な知識・技能について学習する講義・ロールプレイ実習等を行った。

<長崎大学>

○医歯薬高学年次共修

・本学医学部医学科4年生、医学部保健学科4年生、歯学部4年生、薬学部薬学科4年生対象の共修授業で、10名程度/グループで、退院時カンファレンスを想定した症例検討をおこなった。2022年10月31日と11月7日にそれぞれ1コマ、合計2コマ行った。

○オンライン服薬指導実習

・ニプロのオンライン服薬指導システム「ニプロハートライン TM」を取り入れたオンライン服薬指導実習を実施し、遠隔医療に対応できる人材の育成に着手した。対面による服薬指導実習を行った4年生対象に、オンライン服薬指導実習を2日間（2022年11月10日、11日）かけて実施した。

○A-fib研修プログラム

・長崎大学薬学部が、米国ニューメキシコ大学薬学部および長崎県薬剤師会と協力して開発している地域医療教育プログラムであり、心房細動スクリーニングを基盤として、疾病予防に貢献できる高資質な薬剤師を養成することを目的にしている。長崎大学病院循環器内科、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療協働センター、行政などの多職種の協力を得ながら実施した。

2022年10月2日開催。トレーニングを受けた学生5名、教員6名。

○高度臨床実務実習 I

・本実習は、臨床薬剤師としての実践的能力を養うとともに、薬物治療に関する問題発見・解決力を身につけることがねらいである。長崎大学病院内科系診療科(第一内科、第二内科、消化器内科、循環器内科、原研内科、熟研内科)の病棟と外来で2週間の診療参加型臨床実務実習を行った。薬学科5年生10名が受講。

○早期体験学習

・本学習は医療現場での薬剤師の役割を理解し、キャリアについて考えることが狙いである。長崎市内の調剤薬局・病院を訪問し、薬剤師業務を見学、話を聞いた。見学後は大学内にて体験報告会を行い、学びを共有した。学部1年生が参加。

<名古屋市立大学>

○ コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム

- ・学部生を対象として、医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラムを実施した。
- ・本プログラムは、本学多職種連携教育の一環として地域医療に貢献する医療人材育成を目的とした学部横断型の授業である。薬学部1年生から6年間で順番にプログラム授業を10単位修得するとプログラム修了証書が大学から発行される。

○薬学部と災害医療を考える 90分×4 【連携】

- ・岡山大学の災害医療マネジメント学の助教を講師に迎え、名古屋市の健康福祉局と岐阜薬科大学の協力をえて、本格的な薬学生のための災害時の薬剤師の貢献を考える授業を企画、実施した。
- ・薬学科 2年生、3年生、4年生、5年生 計84名

<静岡県立大学>

○ 「令和4年度認定実務実習指導薬剤師アドバンスワークショップ」

- ・「これからの薬局実務実習を考える」における企画及びタスクフォース
静岡県の薬局実務実習における地域格差（賀茂地区における実習の困難さ）について問題提起され、参加者(指導薬剤師)が議論した

2) その他（大学としての取組等）

<千葉大学>

○ 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム 【連携】

- ・平成24年度～28年度文科省「大学間連携共同教育推進事業」 選定取組として実施していたプログラムを継続して実施した。千葉県内3薬科大学が特徴的に有する教育プログラムを相互に受講できるプログラムである。

<長崎大学>

○在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

・長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業。2022年度も長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の3つの科目を提供した。

○長崎薬学コンソーシアム

・薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図るもの。2022年度もコロナ禍の影響で定例会議を2021年度に引き続きオンラインで開催した。

<和歌山県立医科大学>

○ オンライン公開講座「最新の医学・医療カンファランス」

・教職員、学生、一般市民を対象としたオンライン公開講座「最新の医学・医療カンファランス」を医学部、保健看護学部と合同で実施しており、令和4年度は7名の薬学部教授が講演を行った。

○ 医学部薬学部合同勉強会

・令和3年の薬学部開設以来、教員及び学生を対象として、年2回の医学部と薬学部の合同の勉強会を実施している。県立大学として地域医療に貢献することが使命であり、勉強会では医学部および薬学部における関連する研究成果の紹介・情報の共有化を行っている。これにより、地域医療の高度化に向けた学部間の共同研究への展開が期待できる。学生の参加、研究成果の発表を進めたい。